

## アクセシブルな Web の構築 : Joomla のあゆみ

<https://magazine.joomla.org/all-issues/august-2025/building-an-accessible-web-joomlas-story>



2025 年 8 月 17 日

約 20 年前のインターネットの様相がいかに違っていたか、今でもはっきりと覚えています。ウェブサイトは主にテーブルレイアウトで構築されており、当時はコンテンツを構造化する他の選択肢はほとんどありませんでした。ドロップシャドウ、丸い角、鮮やかな色といったデザイントレンドが、ビジュアルスタイルを支配していました。モバイルデバイスはまだ考慮されておらず、レスポンシブデザインも存在しませんでした。当時、ユーザビリティの役割は全く異なり、コンテンツのメンテナンスは主に開発者の技術的な作業でした。編集者にとっては、しばしば大きな課題でした。

このような環境の中で、2005 年に Mambo プロジェクトから派生した Joomla! が誕生しました。Joomla! とそのコミュニティは、開発者だけでなく、代理店、組織、フリーランサーにとっても、柔軟でカスタマイズ可能、そしてユーザーフレンドリーなプラットフォームを目指していたため、当初から刺激的でした。目標は明確でした。品質や機能性を損なうことなく、ウェブサイトの作成と管理を容易にすることです。

アクセシビリティは、当時すでに私にとって重要な懸念事項でした。私は、能力や支援技術に関わらず、誰もがウェブサイトにアクセスできるようにしたいと考えていました。Joomla! は、この目標達成のためのツールとして考えられており、早い段階から参加する必要があると感じていました。

### アクセシビリティ と「続きを読む」リンク をめぐる議論

当時、アクセシビリティについて白熱した議論が繰り広げられたことを鮮明に覚えています。

[Joomla! コミュニティへの公開書簡](#)

特に白熱した議論の一つは、カスタム「続きを読む」テキストの導入に関するものでした。

「続きを読む」リンクとは、記事内でプレビューや紹介から本文へ移動するための短いリンクです。コンテンツを整理し、ページをコンパクトに保つのに役立ちます。読者の興味が湧いたときにのみ展開されます。

問題は（そして今でも）、ページに「続きを読む」というラベルの付いたリンクが複数ある場合、重要な文脈が失われてしまうことでした。スクリーンリーダーで操作する**視覚障害のあるユーザー**は、リンクがどのコンテンツを指しているのか判断できませんでした。Joomla! は、各記事の「続きを読む」リンクに **カスタムテキスト** を設定できるようにすることで、大きな前進を遂げました。些細なことのように見えるかもしれませんが、スクリーンリーダーのユーザーにとっては大きな改善となりました。文脈が明確になり、推測する必要がなくなったからです。Joomla は、アクセシビリティが他のシステムで広く話題になるずっと前から、これらのアイデアを早くから一貫して採用してきました。

## Beez テンプレート

**2008 年**に **Beez テンプレート**が導入され、Joomla のアクセシビリティ向上における重要なマイルストーンとなりました。Beez は当初から、セマンティック HTML、明確な見出し構造、スクリーンリーダーのサポートに重点を置いていました。これらの機能は、Joomla をアクセシビリティの高い Web デザインのパイオニアへと押し上げました。これほど重要なものに貢献し、それが Joomla コアに採用されるのを見るのは、大変喜ばしいことでした。

テンプレートオーバーライドにより、Joomla ユーザーはコアシステムを変更することなく、HTML 出力を正確に制御できるようになりました。これにより、アクセシビリティ要件に合わせてマークアップを調整することが可能になりました。この柔軟性は今日でも Joomla の強みの一つであり、あらゆるユーザーのニーズを満たすコードを提供することができます。

テンプレートオーバーライドの強力な機能にもかかわらず、Joomla コミュニティは Joomla コアの出力自体の改善に取り組み続けました。真のアクセシビリティは、テンプレートだけでなく、**基盤となるシステム**出力が簡潔で理解しやすく、アクセシビリティに優れている場合にのみ実現できます。

## Joomla! 4 : バックエンドのアクセシビリティが重要に

アクセシビリティはウェブサイトの目に見える部分だけに留まりません。Joomla! の**バックエンド**、つまりコンテンツの作成と管理を行う管理インターフェースにも焦点が当てられました。Joomla! 4 では、アクセシビリティを考慮してバックエンドが徹底的に刷新されました。ハイコントラストモード、大きなフォントサイズ、キーボードナビゲーション、スクリーンリーダーとの互換性向上などの機能が追加されました。目標は、アクセシブルなウェブサイトを提供するだけでなく、**障がいのある方がコンテンツ編集者**として働けるようにすることです。

## Joomla アクセシビリティ&ユーザビリティチームの役割

この継続的なプロセスにおける重要な役割を担うのが、Joomla アクセシビリティ&ユーザビリティチームです。コミュニティ内のこの**専任チーム**は、フロントエンドとバックエンドの両方において、Joomla のアクセシビリティを体系的に改善することに注力しています。彼らは、新機能のアクセシビリティをテストし、推奨事項を提供し、リリースをサポートし、Joomla が **WCAG 2.2 AA** などの国際標準に準拠し続けるよう努めています。

## 理念に基づいた CMS : Joomla のアクセシビリティへの明確なコミットメント

長年にわたり、Joomla は柔軟なテクノロジーとモダンなデザインだけでなく、アクセシビリティへの強力かつ一貫した**コミットメント**でも人々を魅了する CMS へと進化してきました。今日、Joomla はアクセシビリティを後付けではなく、**基盤の不可欠な部分**として扱う数少ないシステムの一つです。これは、コミュニティがバージョンアップを重ねるごとに守り続けているコミットメントです。

そして、そのことに深く感謝しています。コミュニティ全体、そして過去 20 年間、情熱を持って尽力してきたすべての方々に。

Joomla コミュニティマガジンに掲載されている記事の中には、特定のトピックに関する著者の個人的な意見や経験を反映したものであり、Joomla プロジェクトの公式見解と一致しない場合があります。

### 著者について

Angie Radtke (アンジー・ラドケ)

以上